

国際経済学科

Department of International Economics

国際経済の担い手としてリーダーシップを発揮できる人材へ

国際経済学科は、経済の国際化に対応できるカリキュラムを展開しています。英語を用いた経済学の講義によって、グローバル社会において通用する経済学の議論が可能になり、また開発経済系の科目の充実によって、世界的な貧困問題などをより深く考えることもできます。国際経済学科の柱となる基本科目群は3つ。1つ目は新しい世界秩序の形成を学ぶ「開発経済・国際投資」。特に開発経済は途上国の貧困問題をマイクロファイナンスのようなミクロの視点、そして海外援助のようなマクロの視点を通じて考えていきます。2つ目、各地域の経済・文化の理解を図る「地域経済」は、世界経済の多極化を背景に、各地域の経済・文化を経済地理やアジア経済論で学びます。3つ目、国際経済を考える基本理論「共通科目群」では、国際経済を考える上で基本となる理論を日本語と英語で学んでいきます。



ワタシの目標と選択

国際経済学科 3年 北村 瑞季さん

■ 国際経済学科を志したきっかけは？

中学高校の頃は保育や介護の仕事に興味があり、人を支えられるような人生を歩もうと漠然と考えていました。高校の修学旅行の時に国際的なテロがニュースとなり、自分と世界の問題をより身近に感じ、海外への興味が高まりました。高校3年の時にはカリフォルニアへのホームステイを経験し、実学として国際問題を学びたいと考えるようになりました。また、苦手だった英語を頑張ったこともあり、英語で人と話すことが好きになりました。国際経済学科に入学してみて、思っていた以上に自由度が高く、大変驚きました。

■ 国際経済学科の特徴とは？

経済と聞くと、計算や数字を用いた勉強を思い浮かべがちですが、国際経済学科では、国と国との関係や世界経済を多角的に学ぶことができ、グローバル社会に求められる知識を総合的に身につくことを目標としています。ゼミでは国際関係論を選択。とても難しい分野ですが、国際テロなどテレビのニュースで見える出来事ははらむ事実について、なぜ起き、なぜこのような結果になったのかということ学ぶことができました。

■ 将来の夢はなんですか？

人からは国際経済学を学んでいるのだから、将来は海外で仕事をするの？とよく聞かれますが、人によって進路は異なると思います。この学科で学んだことを通して、国際社会で活躍したいと思う人もいれば、世界の情勢を知り、改めて日本での仕事に興味を持つ人もいます。私は現在、アルバイトでスポーツ施設の事務とプールの監視員をしています。スイミングスクールへ通う子どもたちとも仲良しです。将来はまだ模索中ですが、国際系の仕事に就くか、或いは今のアルバイトの延長として様々な年代の方たちの健康を支える仕事も素敵だ、と考えています。国際経済学科の学びは、自由度も高く、自分を限定せず、選択肢も豊富です。将来の選択においてさえも、このようにとてもフレキシブルです。それがいちばんの魅力なのかもしれません。

CURRICULUM 国際経済学科カリキュラム

4年間の流れ		1年次	2年次	3年次	4年次	
教養科目	基礎教育科目	入門ゼミ				
	外国語科目	第一外国語	英語			
		第二外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のうちの一つ			
	保健体育科目	選択科目		自由選択		
		スポーツ総合	スポーツ総合			
スポーツ種目		自由選択				
総合教育科目	人文分野・社会分野・自然分野・総合分野・国際コミュニケーション分野から科目を選択					
必修科目	英語で学ぶ経済学入門					
選択必修科目	データで知る世界経済、Japan and the Global Economy、ビジネス数学入門		国際経済論、開発経済入門、Principles of Economics、Demography	国際貿易論、国際金融論、開発経済論、International Economics、Area Studies		
専門科目	共通科目	社会経済学基礎、現代経済学基礎、経済史、統計学、コンピューター入門、Practical Economics	ミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学応用、財政学、金融論、計量経済学、データ解析入門、経済データ分析、企業実務研究	現代経済学応用、コンピューター科学、経済の数理		
		国際投資・開発	国際ビジネス論、経済人類学、環境経済論、ビジネスプログラム入門、現代ファイナンス入門、Business Communication I	国際関係論、企業経済論、産業組織論、地球環境論、Business Communication II		
	地域経済研究	経済地理、日本経済論、アメリカ経済論、ヨーロッパ経済論、現代アジア経済論、中国経済論、Academic Research Seminar、外国語セミナー、Business Research Seminar	地域経済論、世界経済史			
	自由科目	他学科の科目、他学部の科目など (例) 日本国憲法、民法一部/二部、商法一部/二部、経済法、労働法 ※科目ごとに配当年次が異なります。				

※カリキュラム表および科目名は、変更になる場合があります。

各授業についての詳細はこちら <http://syllabus.hosei.ac.jp>

PICK UP LECTURE [国際経済学科] 講義紹介

『英語で学ぶ経済学入門』

担当教員/ジェス・ダイヤモンド 准教授

経済学は社会科学の女王と言われる。良い経済学者になるためには、歴史や政治学なども勉強して社会を様々な角度から分析する必要があります。経済学の面白さはやはり、新聞やニュースで伝えられる世界の出来事を理解し、身近に感じることができること、そしてそれが自分の生活にどういうふうにつながるか、関係が見えてくることで出来事の意義が理解できることではないでしょうか。私が担当する「英語で学ぶ経済学入門」では、1年次のうちから英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を学びます。また、2年次から履修できる「Principles of Economics」になると授業が全て英語となります。アメリカの大学と同じレベルの授業を英語で行うことは学生にとっても大変なことですが、みな高いモチベーションで取り組んでいます。目的が人を成長させるのです。

PROFILE / JESS DIAMOND

専攻: ファイナンス、マクロ経済学、労働経済学

研究テーマは投資。ゼミのテーマは投資・ファイナンス・マクロ経済学などの応用経済学。

